

	一般の名称	報告の概要
595	メトトレキサート	侵襲性リンパ腫の中樞神経系再発患者10例を対象としたパイロットスタディにおいて、高用量メトトレキサートとイホスファミドの併用試験において、好中球減少症による敗血症で1例が死亡した。
596	フィルグラスチム(遺伝子組換え)	免疫抑制療法を行った再生不良性貧血患者387例を対象としたプロスペクティブ研究において、G-CSFの投与期間の減少により、モノソミー7を伴う骨髄異形成症候群/急性骨髄性白血病への移行症例が減少した。
597	カルバマゼピン	カルバマゼピン、フェニトイン、ラモトリジンを使用した香港の漢民族において、HLA-B*1502型の患者で重篤皮膚反応の発生率が高まることが示唆された。
598	カルバマゼピン	カルバマゼピンによってTEN/SJSが生じた12名において、アジア系4名はHLA-B*1502陽性、西洋系8名はHLA-B*1502陰性だったことから、HLA-B*1502はTEN/SJSの普遍的遺伝子マーカーでなく、民族性が重要であると考えられた。
599	リン酸オセルタミビル	頂端膜上にヒトP-糖タンパクを発現している細胞を使用した経細胞輸送アッセイとMdr1a/1bノックアウトマウスを使用したin vivo試験において、オセルタミビルの脳への輸送にはP-糖タンパクが関与している可能性が示唆された。
600	リン酸オセルタミビル	Mdr1a/1bノックアウトマウスを使用したin vivo試験、ヒトおよびマウスP-糖タンパク発現細胞を用いたin vitro試験において、P-糖タンパクがオセルタミビルの血液脳関門透過に関与することが示唆された。
601	クレアチニンキット(体外診断用医薬品)	ブルー血清にドブタミンを添加し、トリンダー試薬と反応させる実験を行ったところ、測定値に負の誤差(数%-40%程)生じることがあり、過ヨウ素酸ナトリウムの添加により回避の可能性があることが示唆された。
602	インドメタシン	うつ血性心不全で入院した66歳以上の患者において、インドメタシンとロフェコキシブを使用において、うつ血性心不全での再入院率が高まることが示唆された。
603	リスペリドン	認知症の診断後に抗精神病薬を投与された患者は、抗精神病薬でない薬剤を投与された患者に比べ、死亡率が高まることが示唆された。
604	サラゾスルファピリジン	一般診療研究データベース(GPRD)を使用したリウマチ性関節炎患者34250例と対照102747例の症例対照研究において、ペニシラミン、スルファサラジン、プレドニゾン服用と敗血症性関節炎の発症率増加との関連が認められた。
605	ジクロフェナクナトリウム	健康白人男性10名において、ボリコナゾールとジクロフェナクの併用により、ジクロフェナクのAUC, Cmaxが上昇することが示唆された。
606	ケトプロフェン	出血性胃潰瘍患者において、非ステロイド性抗炎症剤(NSAIDs)の使用が用量依存的なリスクファクターとなることが示唆された。
607	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤投与により、カンピロバクター及びサルモネラ胃腸炎の感染リスクが高まることが示唆された。
608	リファンピシン	イソニアジド/リファンピシンでの結核治療を行った肺結核患者19例を対象とした薬物動態試験において、リファンピシン、イソニアジド、モキシフロキサシンの併用でモキシフロキサシンの血漿中濃度が低下した。
609	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤投与により、カンピロバクター及びサルモネラ胃腸炎の感染リスクが高まることが示唆された。
610	レボホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者547例を対象としたランダム化Phase III試験(BICC-C study)において、治療開始60日以内死亡率がFOLFIRIで3.6%、mIFLで5.1%、CapeIRIで3.5%、FOLFIRI/ペバシズマブで1.8%、mIFL/ペバシズマブで6.8%であった。